



空中の遊歩道でつながれたビル群のショッピング・モールと ローレンス・ハルプリンによるデザインのニコレット・モールが 二層の町の活気を生み出すミネアポリス

ミネソタ州のミネアポリスとセントポールはミシシッピ川を挟んで位置し、それをツイン・シティズと呼んでいる。ミネソタ州は、湖が至るところに点在しており、ミネアポリスという名前は、インディアンの言葉で“水”を意味する“ミネ”とギリシャ語の“都”、ボリスに由来している。町の北に位置するミシシッピ川の水流を活かしてつくられたセント・アンソニー・フォールズは、水の都にふさわしい壯観な眺めである。以前は小麦粉の製粉の動力として使用されたが、現在は発電に利用されている。

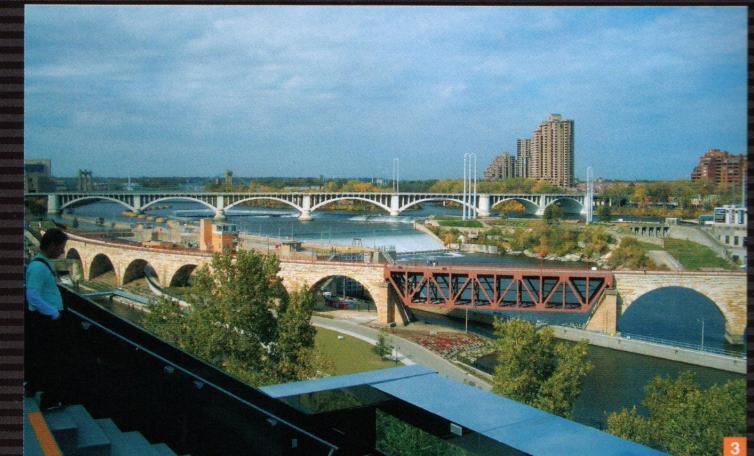
北からダウンタウンへニコレット・モールと呼ばれる商店街に沿って南下すると、歩いて楽しめる町のよさを体験できる。車で常に移動し、買い物にはショッ

ピングモールへ行くような生活を強いられるアメリカ郊外の町に住む者にとっては、歩ける町(Walkable City)のありがたさを新鮮に感じる。スカイウェイと呼ばれる高架歩道が街中のデパートやホテル、テナントの入ったビルをつなげており、冬の寒い時期に外に出ることなく、街中を移動できるユニークな空間をつくっている。

ニコレット・モールは、活気のある歩行者空間にリニューアルしようというローレンス・ハルプリンの試みのひとつで、1967年に完成した。8つのブロックにわたる街路の車道を減らし、曲がりくねらせ、車道と歩道の幅に変化をつけることで空間を魅力的に演出している。現在ではハルプリン作品としての原型は変化

しているが、街路樹と曲がりくねった道、噴水、彫刻、パビリオンが設置された歩行者道路が人々でぎわう様子を見れば、この場所がいかに活気ある空間となっているかを体感できる。

さらに町の南の端に行くと、ウォーカー・アート・センターとミネアポリス彫刻庭園に突き当たる。この美術館は1879年、ミネアポリスの高級住宅地に創立者のバーロウ・ウォーカーが彼のコレクションをもとに開いたのが始まりである。彫刻公園は1992年にマイケル・バン・バルケンバーグのデザインによる拡張部分を含み、フランク・ゲイリー、カルダー、ムーア、イサム・ノグチなどの作品が展示されている。



1 M.ポール・フレッドバーグのデザインによるビーベイ・プラザ、水平、垂直な直線構成で居心地のよい公共空間を人々に提供している。2 ビルとビルをつなげるスカイウェイ。3 セント・アンソニー・フォールズの壮観な眺め。4 ビーベイ・プラザの一角にある野外彫刻。背景の紅葉した木々に色彩が交じり合う。5 ダウンタウンの垂直な構成と調和する野外彫刻。6 ニコレット・モールの一画、道路は微妙にカーブし、景色に面白味を与える。7-10 ミネアポリス彫刻庭園の野外彫刻

